No. 3

第三国集団研修実施協議調査団報告書

―マレイシア，家禽疾病―

昭和62年 5月

国 際 協 力 事 業 団
研 修 事 業 部

研 管
J R
87―7

113
87.9
TAD

第三国集団研修実施協議調査団報告書

―マレイシア，家禽疾病―

JICA LIBRARY
1059907[4]

昭和62年5月

国際協力事業団
研修事業部

国際協力事業団
受入月日 '87. 7. 2
113
87.9
登録No. 16607
TAD

序　　　　文

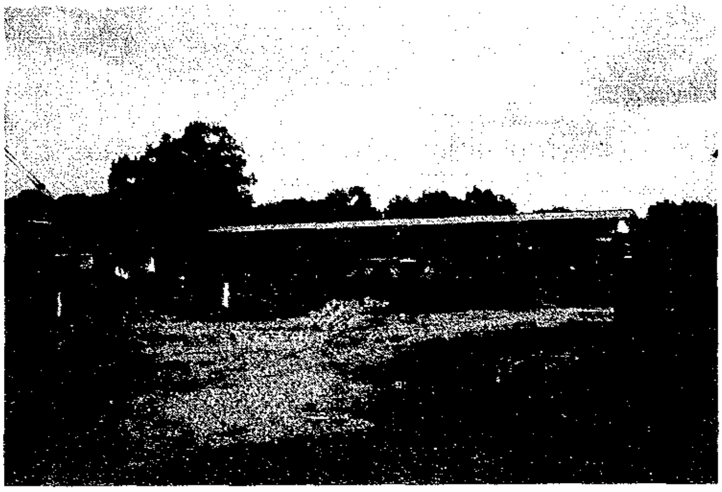
第三国研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤をもつ一定の開発途上地域に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の途上国からの研修員を受入れ、より現地事情に適合した技術・知識の移転を図り、これにより開発途上国間協力の推進に寄与し、将来的には実施国が独自に研修員受入れ事業を実施できるよう協力することを目的としている。昭和４９年度、タイのコラート養蚕研究訓練センターで初めて実施して以来、年々第三国研修実施協力要請は増え続け、昭和６１年度には１６ケ国において３３コースを実施するに至っている。

本報告書はマレイシア国、イポー市にあるアセアン家禽病研究訓練センターにおいて、1987（昭和６２）年度より実施する第三国集団研修家禽疾病に関する実施協議のために昭和６２年3月１５日より3月２１日まで派遣せしめた実施協議調査団とマレイシア側との協議内容を取りまとめたものである。

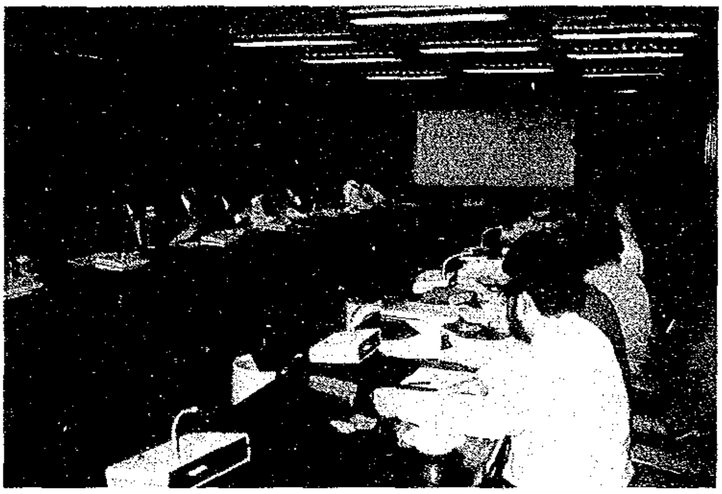
調査団の派遣に際し、並々ならぬ御協力を賜った外務省、農林水産省、在外公館並びに派遣専門家の各位に深い感謝の意を表する次第である。

昭和６２年5月

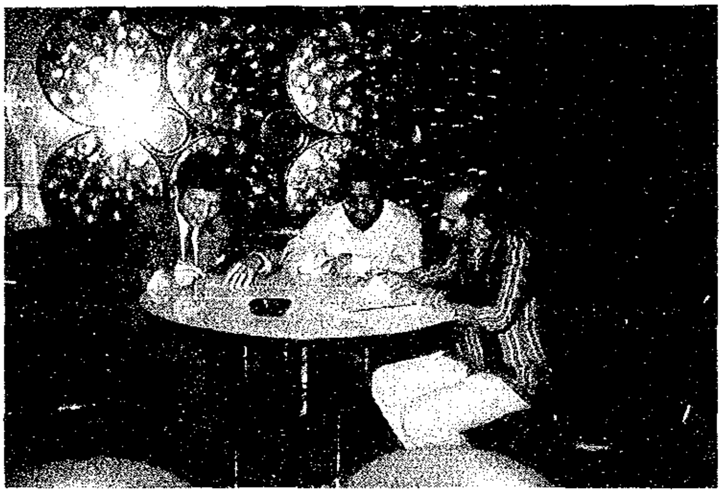
研修事業部長



建設中の研修施設



R／D 実施協議風景



R／D 署名

要　　　約

マレイシア第三国集団研修家禽疾病実施協議調査団は、本件事前調査団（1985年11月）の報告をふまえ、各コース（①家禽病及びその防疫に関するASEANセミナー②ASEAN家禽病基礎診断技術コース③ASEAN家禽病特殊診断技術コース）の目的、到達目標、期間・時期、カリキュラム、割当国、定員、応募資格、受入れ・経理手続、経費見積等についてマレイシア側と協議を行なった。

当初、本研修は研修施設の完成直後に開始されることにより、実験器具等の充分な準備が難しい故、初年度のみセミナーを開催する予定であった。しかし此度マレイシア側よりセミナーの必要性が強く打ち出され、その結果セミナーを毎年開催し、その他2コースの内1コースをセミナーに合わせて実施することとした。なお、初年度のセミナーにおいては、各国の技術情報交換、カントリー・レポートの発表、新しい技術の発表問題の提起、アセアン各国からのセミナーに関する意見の聴取と今後予定されるセミナーとコースのあり方を検討することを確認した。

目　　次

序　文
写　真
要　約

1. 実施協議調査団の派遣 …… 1
1.1 派遣の経緯と目的 …… 1
1.2 調査団の構成 …… 1
1.3 日程表及び主要面談者 …… 2

2. 討議議事録（R／D）作成の協議経緯 …… 4
2.1 研修計画 …… 4
(1) コース名 …… 4
(2) 目　的 …… 4
(3) 到達目標 …… 4
(4) 期間・時期 …… 4
(5) カリキュラム …… 5
(6) 割当国 …… 6
(7) 定　員 …… 6
(8) 応募資格 …… 7
2.2 実施手続 …… 7
(1) 受入れ手続 …… 7
(2) 経理手続 …… 8
2.3 双方の分担 …… 8
(1) 経　費 …… 8
(2) 専門家 …… 8
2.4 その他 …… 8

3. 第三国集団研修実施上の留意点 …… 10
3.1 研修計画 …… 10
3.2 実施体制 …… 10

4. その他特記事項 …… 10

付属資料　R／D …… 11

1. 実施協議調査団の派遣

1.1 派遣の経緯と目的

1982年日・アセアンフォーラムにおいて、アセアン家禽病研究・訓練センター設立にかかる協力要請がアセアン事務局より申し越され、同要請に基づき1984年度コンタクト調査団、1985年度技協・無償合同事前調査団、第三国研修事前調査団、無償基本設計調査団、1986年度プロ協実施協議調査団が夫々派遣されて来た。

第三国研修実施については、1985年度第三国研修事前調査団を派遣し、マレイシア側関係者との協議を通し研修計画及び実施・運営に関し、その大筋は了解されているところ1987年度実施に向け研修計画等の詳細について先方と協議を行ないR／Dの作成・署名を行なうことを目的とする。

1.2 調査団の構成

担当	氏名	所属先及び職位
団員 総括	吉田 芳夫	JICA筑波インターナショナルセンター総務課長
団員 研修計画	前田 稔	農林水産省家畜衛生試験場毒性病理研究室室長
団員 研修運営	平野 光男	JICA研修事業部管理課

1.3 日程表及び主要面談者

日　時	内　容	マレイシア側	日本側
3/15 (日) 13:00	成田発(JL719)		
19:15	シンガポール着		
20:15	〃　発(SQ114)		
21:00	クアラ・ランプール着		
3/16 (月) 9:30	日本大使館表敬		小山田一等書記 三　村　〃
10:00	JICA OFFICE表敬		松崎事務所長他
14:30	アセアン事務局表敬	次長Mr. V. Yoogalingam 主席Mr. Than Tai Hing	調査団 草野調整員
15:30	DVS 表敬	Dr. Ahmad Mustaffa Dr. Hj. Kardin Mr. Yahya Muhammad Dr. Wan Ahmad	調査団 草野調整員
3/17 (火) 9:50	クアラ・ランプール発(MH160)		
10:30	イポー着		
11:00 〜 14:00	プロジェクト専門家との打合せ		勝屋専門家 坂田専門家
14:30 〜 16:30	VRI にて実施協議	副所長Dr. P George Joseph Dr. Gan Chee Hiong	調査団 草野調整員
3/18 (水) 9:45	イポー発(MH123)		
10:30	クアラ・ランプール着		
14:30 〜 17:00	DVS にて実施協議	Dr. Ahmad Mustaffa Dr. Hj. Kardin Mr. Yahya Muhammad Dr. Wan Ahmad	調査団 草野調整員
3/19 (木) 10:00 〜 11:30	EPU、DVS との実施協議会	DVS Dr. Hj. Kardin Mr. Yahya Muhammad Dr. Wan Ahmad VRI Dr. Gan Chee Hiong EPU Ms. Wan Norma Wan Daud ASEAN Mr. Md. Hussin Bin N Ministry of Agiri. Mr. Mohd Yassin Salleh	三村一等書記官 後藤二等書記官 松崎事務所長 今井事務所員 勝屋専門家 草野調整員 調査団

日　　時	内　　容	マレイシア側	日本側
		Mr. Abdul Ghaffar A.T DPS Mr. Zawawi B.A.Rahman	
12:30 ≀ 14:00	DVS 主催レセプション		
19:30 ≀ 22:00	R/D 署名、調査団主催レセプション	農林次官補 Datuk T. Puvanarajah アセアン事務局員 Mr. Md. Hussin Bin N DVS Dr. Ahmad Mustaffa Dr. Hj. Kardin Mr. Yahya Muhammad Ministry of Agiri. Mr. Mohd Yassin Salleh Mr. Abdul Ghaffar A.T DPS Mr. Zawawi B.A. Rahman	後藤二等書記官 林事務所次長 成田事務所員 今井事務所員 勝屋専門家 草野調整員 調査団
3/20 (金) 9:30 ≀ 12:00	Agriculture University Malaysia 見学		
15:00 ≀ 16:30	Petaling Jaya Diagnostic Laboratory 見学		
3/21 (土) 11:00	JICA OFFICE 報告		
23:10	クアラ・ランプール発（JL722）		

2. 討議議事録（Ｒ／Ｄ）作成の協議経過

2.1 研修計画

当初、初年度のみセミナーを開催し、その後基礎診断技術コース、特殊診断技術コースの２コースを毎年実施する予定であったが、マレイシア側からアセアン諸国における家禽病の実情や情報の交換の場としてセミナーは毎年必要であるとの強い要望があった。協議の結果下記のようにセミナーを毎年開催し、その他２コースの内１コースをセミナーに合わせて実施することとした。

１年目：セミナー

２年目：セミナーと基礎診断コース

３年目：セミナーと特殊診断コース

４年目：セミナーと基礎診断コース

なお、原則としてセミナーにおけるトピックは毎年異なることを確認した。

(1) コース名

① コースⅠ 家禽病とその防疫に関するＡＳＥＡＮセミナー

② コースⅡ ＡＳＥＡＮ家禽病基礎診断技術コース

③ コースⅢ ＡＳＥＡＮ家禽病特殊診断技術コース

(2) 目 的

アセアン諸国における家禽病分野についての、より適切で新しい技術の習得並びに家禽病研究における人材の開発を目的とする。

(3) 到達目標

① コースⅠ

ア．アセアン諸国における家禽病の実情（診断状況、防疫状況等）を認識するとともに

イ．予防及び防疫技術に関する知識を向上させる。

② コースⅡ

ア．基礎実験器具の取扱い

イ．診断例の採取と提出

ウ．主な家禽病の基礎診断技術に熟練する。

③ コースⅢ

ア．主な家禽病の診断技術を専攻する。

イ．主な家禽病の研究技術を専攻し、

ウ．ワクチン製造のような特殊なトピックに関しての技術的な知識を向上させる。

(4) 期間・時期

第三国研修の協力期間について、１９９０年以降延長が可能かどうかという意見が出されたが

プロジェクト技術協力の協力期間に合わせ、当初案どおり1990年までとした。

① コースⅠ 1988年3月6日から3月17日までの2週間

現在建設中の建物の完成は1月であるが、完成の遅れが充分考えられるので、研修開始日時について具体的にR／Dに明記することは出来ないとの強い意見が出された。建物の完成が大幅に遅れた場合は、研修開始時の遅れも止むを得ないとし、be planned の表現にした。

② コースⅡ 約3ヶ月（当初案は3ヶ月）

③ コースⅢ 約3週間（当初案は2週間）

(5) カリキュラム

① コースⅠ

3月 6 日：イポー到着
オリエンテーション

3月 7 日：開講式
研修日程の説明
センター及びVRIの見学
マレイシア獣医局の組織と機能に関する講義
センター設立に至る日本の協力の紹介

3月 8 日：カントリー・レポートの発表
家禽産業、家禽病の発生事情、家禽病の防疫、家禽病に関する研究と診断のための設備等の概要説明
討論

3月 9 日：現在の研究に関する講義
日本における家禽病の防疫
日本における新しい家禽病の発生と現在の研究プロジェクト
センターにおける新しい家禽病の発生と現在の研究プロジェクト
マレイシア農科大学における新しい家禽病の発生と現在の研究プロジェクト

3月10日：研修旅行：午前 移動
午後 地域獣医診断所見学

3月11日： 〃 午前 州獣医局見学
午後 農場見学
〃 午前 飼料工場見学
午後 移動

3月13日：休　日

3月14日：事例発表：事例報告、研究結果、現在の研究プロジェクト、実地検査報

3月15日：　〃　　告等研修員による科学的な論文

3月15日：討　論：セミナーの評価

今後のセミナーとコースについてのトピックに関する紹介

3月15日：閉講式

イポー出発

② コースⅡ

基礎診断技術コースは、基礎的な実地技術の習得を目的として、講義、実習、実例、事例討論、研修旅行を実施する。コースは12週間行なわれ、各研修項目の選定と時間の割り当ては、本研修における重要性を特に考慮している。基礎診断技術コースに盛り込まれた割り当て時間とトピックは第1回目のセミナーの結果をふまえ、変更もありうる。

最初の2週間：オリエンテーション

一般トピック

研修旅行

評価

報告

4　週　間：ビールス学

3　週　間：病理学

2　週　間：細菌学

1　週　間：寄生物学

③ コースⅢ

コースは3週間にわたり、研修員に特殊診断・研究、技術とその応用についてより深い知識を開発させる。研修員は習得した技術を、自国において充分実施できるように努めなければならない。コースは講義、実習そして研修旅行から構成される。

ア. 家禽病の診断（ビールス病、細菌病と寄生虫病）のための免疫学と血清学技術

イ. 家禽ビールスの発生の隔離と検証のための技術

コースのタイトルと主題については第1回目のセミナーの結果をふまえ、変更もありうる。

(6) 割当国

ブルネイ、インドネシア、フィリピン、シンガポール、タイ

(7) 定　員

当初案どおりであるが、各コースともアセアン各国から同数の研修員の受入れを計画しているが、研修希望の無い国があった場合は総数で考えることとする。又、ホスト国の研修員数を

増して欲しいとの要望が出されたが、アセアン諸国のための研修であるのでアセアンからの研修員数を越えることは出来無い旨了承を得た。

① コースⅠ

アセアン諸国（開催国のマレイシアを除く）から１０名及びマレイシアから15名の計２５名

② コースⅡ

アセアン諸国（開催国のマレイシアを除く）から５名及びマレイシアから２名の計７名

③ コースⅢ

アセアン諸国（開催国のマレイシアを除く）から５名及びマレイシアから２名の計７名

(8) 応募資格

所定の手続による政府の推薦による者。大学卒業者又は同等の技術的知識を有する者。英語が堪能であること。かつ研修を受けるにふさわしく心身が健全であること。

① コースⅠ

家畜衛生、特に家禽病に関係する分野において５年以上の経験を有する獣医官又は科学者。

原則として５０才以下であること。

② コースⅡ

家禽衛生分野において２年以上の経験を有し、実験室内診断サービスに従事する獣医官、科学者又は上級技術者。

原則として３５才以下であること。

③ コースⅢ

家畜衛生、特に家禽病に関係する分野において５年以上の経験を有し、実験室内診断サービスに従事する獣医官、科学者又は上級技術者。

原則として４０才以下であること。

2.2 実施手続

(1) 受入手続

1987年9月上旬	G.I.作成 A１フォーム提出 専門家募集
1987年10月上旬	G.I.及び要請フォーム送付
1988年1月上旬	要請書受領 B１フォーム提出
1988年2月上旬	研修員の選考

その他詳細は別添 R/D 中１０、１１のとおり。

(2) 経理手続

当初、送金については１９８８年１月を予定していたが、G.I. 作成時には、入金が必要であるとの強い要望から資金の手続と送金時期を早めた。

１９８７年８月上旬　　経費の見積の提出

銀行口座の開設

１９８８年９月上旬　　送金

その他詳細は別添 R/D 中１２のとおり。

2.3 双方の分担

(1) 経　　費

当初、航空券は、研修員の在住する最寄りの国際空港からクアラ・ランプールまでであったが、イポーまでとした。

又、無償資金協力による宿泊棟が現在建設中であるため、宿泊料は支給せず、又研修旅費についてもマイクロバスを所有しているため交通費の支給は不要となった。

マレイシア国外からの外部講師については、当初懸念されていた程、強い希望は出されなかった。マレイシアはホスト国として充分な力量を備えており、その範囲内においてアセアン諸国をマレイシアのレベルまで引上げることが期待されているとの説明をした。又、外部講師をどうしても必要とするならば、経費はマレイシア側の負担である旨了承を得た。

その他詳細は別添 R/D 中 ANNEXⅢのとおり。

(2) 専 門 家

日本人専門家の担当は以下のとおりである。

ア．日本における家禽病の防疫（行政面）

イ．日本における家禽病の最近の状況（学術面）

マレイシア側からは２名の専門家の要請があったが、原則として日本人専門家は１名とする。但し、上記ア、イについてどちらかを優先するならばアを優先すべきであるが、第１回セミナーはその後のセミナーとコースの内容の設定に需要であるため充分な検討が必要である。

又、講師についてはＤＶＳ、ＶＲＩ職員が中心となり、若干のマレイシア国内の講師を招聘し、その任に当てる。

2.4 そ の 他

(1) 評　　価

コース終了時には、ＪＩＣＡ 所定のフォームを使用し、研修員による研修評価を行ない、研

修実施期間においてもコースレポートを作成する。

(2) Genral Information

数種のG.I.サンプルを参考に渡し、G.I.には Government of Japan 又はJICAの名称を明記すること、内表紙には under the third country training programme という文言を折り込むよう指示した。

(3) 署　名

本研修は、特にアセアン諸国を対象としているところ、実施協議についてはアセアン事務局職員の参加を得、R/Dの署名にあたっては証人としてR／Dの署名に加わってもらった。

3. 第三国集団研修実施上の留意点

3.1 研修計画

セミナーはその後のコースのあり方を決定する上で重要な位置を占めている。基礎診断技術コースは若い技術者を対象として3ヶ月間行なわれ、各実験室内での実験業務、技術の習得を目的としている。1988年度に第1回が実施されるが、それまでに各実験室が充分な技術を確立しうるかどうかが大きな問題となる。特殊診断技術コースは中堅技術者を対象とするものでR／Dに示されているように、さらに深い知識と高度な技術を与えようとするものである。高度な免疫学的手法あるいはウィルス学的手法がコースの目標として挙げられている。果してこれらの手法が、アセアン諸国で充分に活用されうるものであるかどうか更に検討が必要である。

3.2 実施体制

上記の各コースはマレイシアVRI、JICAプロジェクトチーム、日本人専門家、マレイシア農科大学などの協力によって行なわれる。この中でJICAプロジェクトチーム（counter parts も含めて）が各実験室でどれだけの技術を確立しうるか、研究業績を挙げうるか、又、有能な日本人専門家を派遣しうるかが実施体制上重要な問題となる。

なお、この第三国研修は家禽病の診断技術の普及を目的とするものであり、ASEAN諸国を対象とするものである。従って、1) 診断に関する基礎的、実用的技術の普及を目的とし、2) この研修によって参加諸国間に不平等が生じないような配慮が重要である。

4. その他特記事項

マレイシアにおける家禽病に対する技術水準を推察しうるかも知れないとの期待から、農科大学及び地域獣医診断所を訪問した。農科大学は学問別体系の機構を持ち、鶏病が特に研究され、教程に盛り込まれている様子はなかった。又、地域獣医診断所ではかなりの家禽病診断を行なっていたが、その疾病集計を見るとCELOウィルス感染症、感染性単球症（CAA感染症）、ウィルス性関節炎が単にAGP抗体陽性を持って診断されることなど、理解し難い疾病名や診断方法が応用されていた。

このことは、基礎的・実用的技術が第三国研修において普及されるならば、有意義な成果が期待しうることを示している。

THE RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE CONSULTATION TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF MALAYSIA ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME AT THE ASEAN POULTRY DISEASE RESEARCH AND TRAINING CENTRE

KUALA LUMPUR, MALAYSIA
19TH MARCH, 1987

THE RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE CONSULTATION TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF MALAYSIA ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME AT THE ASEAN POULTRY DISEASE RESEARCH AND TRAINING CENTRE

The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. YOSHIO YOSHIDA visited Malaysia from 15th March to 21st March, 1987 for the purpose of formulating the training courses in the field of poultry diseases under the Third Country Training Programme of JICA at the ASEAN POULTRY DISEASE RESEARCH AND TRAINING CENTRE.

During its stay in Malaysia, the Team had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of Malaysia with respect to the framework of the above mentioned training courses and the desirable measures to be taken by both Governments to ensure their successful operation.

As the result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the attached documents.

Kuala Lumpur, 19th March, 1987

MR. YOSHIO YOSHIDA
Head
Japanese Consultation Team
Japan International Cooperation Agency

DATUK T. PUVANARAJAH
~~Deputy~~ Secretary General
Ministry of Agriculture
Malaysia

Witnessed by

MR. MD. HUSSIN BIN NAYAN
ASEAN-Malaysia Secretariat
Ministry of Foreign Affairs
Malaysia

THE ATTACHED DOCUMENT

The Government of Japan and the Government of Malaysia will cooperate with each other in organizing the training courses in the field of Poultry Diseases at the ASEAN POULTRY DISEASE RESEARCH AND TRAINING CENTRE of the Veterinary Research Institute (hereinafter referred to as "VRI") under the Third Country Training Programme of JICA.

The Government of Malaysia will conduct the following courses with the support of the Technical Cooperation Programme of the Government of Japan :

i. Seminar on poultry diseases and their control
ii. Course in basic diagnostic techniques
iii. Course in specialized diagnostic techniques

The Seminar will be held annually from the Japanese fiscal year of 1987 and one of the two courses will be conducted annually from the Japanese fiscal year of 1988 to 1990, subject to an annual consultation between both Governments.

The three courses will be operated in accordance with the followings :

1.

TITLE

The courses will be entitled :

Course i. "ASEAN Seminar on Poultry Diseases and Their Control"
Course ii. "ASEAN course in Basic Diagnostic Techniques on Poultry Disease"
Course iii. "ASEAN course in Specialized Diagnostic Techniques on Poultry Diseases"

4.4.

2. PURPOSE

The purpose of the courses is to provide the participants from ASEAN countries with an opportunity of refreshing and upgrading relevant techniques in the field of Poultry Disease and thus to contribute to the manpower development in poultry disease research in the ASEAN countries.

3. OBJECTIVE

At the end of the courses the participants are expected to :

Course i. (1) recognize the various aspects of poultry disease situation (diagnosis, control, etc.) in ASEAN countries, and
(2) increase technical knowledge on disease prevention and control.

Course ii. (1) handle basic laboratory equipment
(2) take and submit diagnostic samples, and
(3) be proficient in basic diagnostic techniques of major poultry diseases.

Course iii. (1) specialize in diagnostic techniques of major poultry diseases
(2) specialize in research techniques of major poultry diseases, and
(3) increase technical knowledge on the specialized topics such as vaccine production.

44.

4. DURATION

The courses will be held :

Course i. For two (2) weeks, in the Japanese fiscal year 1987 and planned for 6th March to 17th March 1988.

Course ii. For about three (3) months.

Course iii. For about three (3) weeks.

5. CURRICULUM

The tentative curriculum of each course is attached as ANNEX I.

6. PARTICIPATING COUNTRIES

The Governments of the following countries, besides Malaysia, will be invited to apply for the courses by nominating their applicant(s) :

Negara Brunei Darussalam, Indonesia, the Philippines, Singapore and Thailand.

7. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the invited countries shall not exceed :

Course i. Ten (10)

Course ii. Five (5)

course iii. Five (5)

And the number of participants from Malaysia shall not exceed :

Course i. Fifteen (15).
Course ii. Two (2).
Course iii. Two (2).

8. QUALIFICATION OF APPLICANTS

Applicants for the courses are :

8-1 To be nominated by their Governments in accordance with the procedure mentioned in 10-1 below.

8-2 To be university graduates, or have the equivalent technical background.

8-3 To have the practical experience of :

Course i. More than five (5) years in the field of animal health especially related to poultry diseases.

Course ii. More than two (2) years in the field of animal health.

Course iii. More than five (5) years in the field of animal health especially related to poultry diseases.

8-4

Course i. To be official veterinarians or scientists in the said field.

Course ii. To be official veterinarians, scientists or senior technical officers involved in laboratory diagnostic services in the said field.

Course iii. To be official veterinarians, scientists or senior technical officers involved in laboratory diagnostic services in the said field.

G.Y.

8-5

Course i. To be under fifty (50) years of age in principle.
Course ii. To be under thirty-five (35) years of age in principle.
Course iii. To be under forty (40) years of age in principle.

8-6 To have a good command of spoken and written English, and

8-7 To be medically fit to attend the course.

9. VENUE OF COURSES

The ASEAN Poultry Disease Research and Training Centre, Veterinary Research Institute, Department of Veterinary Services, Ministry of Agriculture, Tiger Lane, Ipoh, State of Perak, Malaysia.

10. PROCEDURE OF APPLICATION

10-1 The Government applying for the courses shall forward five (5) copies of the prescribed application form for each nominee to the Government of Malaysia through their diplomatic channels not later than two months before commencement of the courses.

10-2 The Government of the Malaysia will inform the applying Governments whether or not the applicant(s) is/are accepted to the courses not later than one month before commencement of the courses.

11. UNDERTAKINGS OF GOVERNMENT OF JAPAN AND GOVERNMENT OF MALAYSIA

In organizing and implementing the courses in compliance with the Schedule of Course Operation attached in ANNEX II, both Governments will take the following measures in accordance with the relevant laws and regulations in force in each country :

11-1 The Government of Malaysia

11-1-1 Economic Planning Unit

1) to forward the General Information brochures (G.I.) of the courses to the Governments of invited countries through its diplomatic channels
2) to receive application forms and to forward them to VRI, and
3) to notify the respective Governments and ASEAN Secretariat the results of selection of participants.

11-1-2 VRI

1) to formulate the curriculum based on ANNEX I
2) to draft and print the G.I.
3) to assign an adequate number of its staff as lecturers/instructors for the courses
4) to provide its training facilities and equipment for the course

4.4.

5) to select participants in the course, and to inform the result of the selection to their respective Governments and the JICA - Malaysia Office (hereinafter referred to as "the JICA Office")

6) to provide accommodations for participants

7) to arrange international air tickets and to meet and see off participants at Ipoh airport

8) to arrange domestic study tour(s) to be included in the courses

9) to take budgetary measures to bear the expenses necessary for conducting the courses excluding the expenses financed by the Government of Japan

10) to issue a certificate to participants who successfully complete the courses at the end of the courses

11) to submit a course report and a statement of expenditures to the JICA Office, and

12) to coordinate any matter related to the courses.

II-2 The Government of Japan

1) To dispatch, following the regular procedures of its technical cooperation scheme, short-term expert(s) who gives advice to VRI and delivers lectures on such subjects as mentioned in ANNEX I.

2) To bear the following expenses for the courses through JICA as the Tentative Estimate of Expenses shown as ANNEX III :

a) Such expenses relevant to participants from the invited countries as international economy class flight fare and travel expenses between Ipoh and international airport designated by the JICA Office, daily subsistence allowance and medical insurance premiums.

b) Such expenses relevant to VRI as honoraria for external lecturers, arrangement of meeting and study tours, teaching aids, expendable supplies, copies and reprints, and secretarial services.

12. PROCEDURE OF REMITTANCE AND EXPENDITURE

The remittance and expenditure of the funds for the expenses to be borne by JICA will be arranged in accordance with the following procedures :

12-1 VRI will open a bank trust account in Malaysia to receive the fund remitted by JICA and inform the JICA Office of the name of the bank, the account code number and the name of the account holder.

12-2 VRI will submit to the JICA Office the bill of estimate for expenses to be borne by JICA not later than sixty (60) days before the opening of the courses.

12-3 JICA will assess the bill of estimate and remit the assessed amount of the expenses to the account mentioned in 12-1 above within thirty (30) days after receipt of the bill of estimate.

12-4 VRI will submit to the JICA Office a statement of expenditure within thirty (30) days after termination of the courses.

44.

12-5 In case any amount of the fund remitted by JICA remains unspent, VRI will reimburse the unspent amount to JICA in accordance with the instructions given by JICA. The fund allocated for the flight fare and travel expenses, daily subsistence allowance and medical insurance premiums shall not be appropriated for other purposes.

12-6 At the request of JICA, VRI will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence necessary to certify the expenditures stated in 12-4.

13. This Attached Document and the following Annexes attached hereto shall be deemed to be a part of the Record of Discussions :

ANNEX I	:	Tentative Curriculum of the Course
ANNEX II	:	Schedule of the Course Operation
ANNEX III	:	Tentative Estimate of Expenses to be borne by JICA

u.4.

ANNEX I

TENTATIVE CURRICULUM OF THE COURSE

Course I: ASEAN Seminar on Poultry Diseases and Their Control

DATE	C O N T E N T S
March 6	•Arrival at the Centre (Ipoh) •Housing •Orientation
7	•Opening Ceremony •Guidance on the Seminar Schedule •Tour of the Centre and VRI •Lecture on the Organization and Function of Department of Veterinary Services, Malaysia •Introduction of Japanese Cooperation to the Centre
8	•Presentation of Country Report •Outline of Poultry Industry, Outbreak Cases of poulry diseases, control of poultry diseases, facilities for researches and diagnosis on poultry diseases •Discussions
9	•Lectures on Current Research •Poultry disease control in Japan •Recent progress and current research projects on poultry diseases in Japan •Recent progress and current research projects on poultry diseases in the Centre •Recent progress and current research projects on poultry diseases in the Universiti Pertanian Malaysia
10	•Field Trip
11	ditto
12	ditto
13	•Free
14	•Case Presentation •Scientific paper by the participants, e.g. case report, research result, current research projects, field survey report, etc.
15	ditto
16	•Discussion •Evaluation of the seminar •Recommendations on topics for subsequent seminars and courses
17	•Closing Ceremony •Leaving the Centre (Ipoh)

(to be continued)

6.4.

Course II: ASEAN Course in Basic Diagnostic Techniques on Poultry Diseases

The course will place emphasis on the acquisition of basic practical skills. The course itself will consist of lectures, practicals, demonstrations, case discussion and study tours. It will extend over a period of 12 weeks and the time alloted to each discipline is a reflection of the emphasis to be given to the discipline. The actual time allocated and the topics to be covered in the basic course are subject to change pending recommendations which may be forthcoming from the first ASEAN Seminar. A suggested breakdown of the time use is given below:

1. Orientation/ General Topics/ Study Tour/ Evaluation / Report	2 weeks
2. Virology	4 weeks
3. Pathology	3 weeks
4. Bacteriology	2 weeks
5. Parasitology	1 week
	12 weeks

Each portion of the course will be conducted as a module for all participants.

(to be continued)

6.4.

Course III: ASEAN Course in Specialized Diagnostic Techniques on Poultry Diseases

The course is to be conducted over a 3-week period and should develop in participants a more in-depth knowledge of specialized diagnostic/research techniques and their applications. Participants should develop the necessary skills to enable them to carry out these tests in their own countries. The course is built on lectures, practicals and study tour.

Two suggested course titles are given below:

1. Immunological and Serological Techniques for the diagnosis of Poultry Diseases(Viral Diseases, Bacterial Diseases and Parasitic Diseases)

2. Techniques for the Isolation and Identification of Avian viral pathogens.

The course titles and subject matter are subject to change pending recommendations which may be forthcoming from the first ASEAN Seminar.

ANNEX II

SCHEDULE OF COURSE OPERATION

ASEAN Seminar on Poultry Diseases and Their Control

MONTH AND YEAR	MALAYSIA SIDE	JAPANESE SIDE
Middle March, 1987	1. Signing of Record of Discussions	1. Signing of Record of Discussions
Early August, 1987	1. Opening of Bank Trust Account 2. Submission of Bill Estimate	
Early September, 1987	1. Preparation of G.I. 2. Submission of Form A-1	1. Recruitment of Expert 2. Remittance of Expense
Early October, 1987	1. Distribution of G.I. & Application Form	
Early January, 1988	1. Receipt of Application Forms	1. Submission of Form B-1
Early February, 1988	1. Notification of the Selection of the Participants	
March 6 - March 17 ,1988	1. Implementation of Course	1. Dispatch of Expert
Late March, 1988	1. Submission of Statement of Expenditures	
Middle April, 1988	1. Submission of Course Report	

ANNEX III

TENTATIVE ESTIMATE OF EXPENSES TO BE BORNE BY JICA

ASEAN Seminar on Poultry Diseases and Their Control(1987/1988)

ITEM OF EXPENSES	BREAKDOWN	AMOUNT(MS$)
I. INVITATION EXPENSES		
1.Airtickets(ROUND TRIP)	@922.80x10persons	9,228
2.Daily Subsistence Allowance	@35x10personsx12days	4,200
3.Medical Insurance Premiums	@50x10persons	500
SUB TOTAL		13,928
II. TRAINING EXPENSES		
1.Honoraria for external		
(1)Honoraria	@50x1personx3days	150
(2)Transportation	@110x1person	110
2.Employment Fee	@32x1personx5days	160
3.Transportation (for study tour)		
(1)Traveling Expenses	@80x30personsx2days	4,800
	@35x20personsx3days	2,100
4.Material Procument		
(1)Articles of Comsumption		4,797
(2)Meeting Expenses	@10x40personsx2times	800
(3)Others		3,450
5.Textbook		
(1)Book Printing	1,000x2kinds	2,000
(2)Teaching Aid Purchase	Transparencies 3M	300
SUB TOTAL		18,667
GRAND TOTAL		32,595

G. Y.

JICA